



株式会社京王エージェンシー

業 種 / サービス業
 主な事業内容 / 広告代理業
 従業員数 / 229人

備 蓄

災害時の滞在でも快適に過ごせるように

●防災用非常食の選定には社員の声を取り入れる

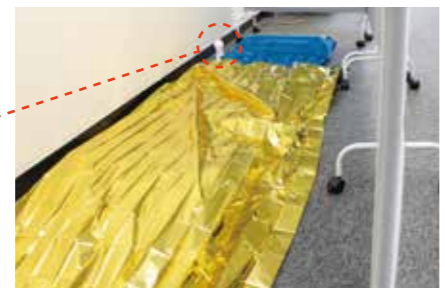
震災などで滞在状況となった場合、社員が少しでも快適に滞在できるように、防災担当者から社員へ商品別の人気や味の好みなどをヒアリング調査し、収集した意見を参考に備蓄品を購入。

また、災害時、実際に口にすることとなる食品の味や食べ方を事前に試

してもらい、防災備蓄品に対する関心を高めるとともに、防災用食品だけではなく、ふだん食べ慣れている栄養バランス菓子なども取り入れることで、味覚から平時の安心感を得られるように配慮した。また、食品ロスの観点からも消費期限が到来する少し前に社員へ放出している。



備蓄品



停電時や夜間など暗い室内でも手元を照らせるライトを準備



ついたてで仕切ることでプライバシーが守られ、安心して滞在できる

社内宿泊も想定しプライバシーに配慮

●ワンボックスに女性用の備蓄品をまとめる



女性向けの備蓄品をワンボックスに収納

女性社員の視点を取り入れた備蓄品も数多く揃えたほか、会議室には宿泊した時にプライバシーへ配慮ができるように「ついたて」を常備。区切られたスペースごとに、エアマットや小さなライトを用意した。



周 知

自社独自で「災害時の手引き」を作成し、社員に周知徹底

●災害発生時に必要な情報をまとめた手引きを作成

当社では自社独自の「災害時の手引き」を作成。作成にあたっては、社内規程である「防災規則」や行動チャートや入居するビルの利用細則など、災害発生時に必要な情報が、いくつかの文章に分かれて記載されていたが、被災時の基本フローや各種連絡先、消火器や防災備蓄品の設置場所などを網羅し、「手引き」としてまとめた。

●手引き書を社内ネットワークに掲示して周知を促す

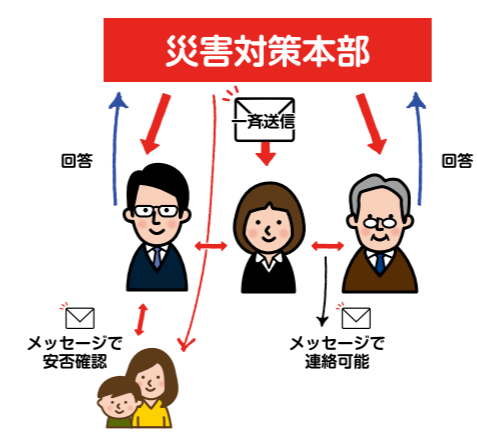
「災害時の手引き」はイントラネット、グループウェアに掲示し、社員からは災害時の行動が分かりやすくなったという声がある。防災担当は読み返してもらえるようにメールなどで定期的な呼びかけを行い、社員に周知を徹底している。



●備蓄品をリフレッシュスペースなどに分散備蓄
 帰宅抑制で会社に留まることを前提に社員が3日間待機できるのに必要な備蓄品を整備。備蓄品をリフレッシュスペースなどに分散備蓄。

訓 練

定期的に安否確認システムを使った訓練を実施



安否確認システムを利用しての迅速な連絡確認訓練を実施。安否確認システムは家族の連絡先も登録でき、社員とその先にいる家族の安否も迅速に把握できるようになっている。

訓練では対策本部から一斉配信される訓練メールに回答。社員には事前に実施日時を知らせ、メッセージ機能を使った安否確認を行う。この時、連絡先を登録している家族へも訓練メールが送信されるので、事前に家族へも訓練実施の旨を伝える。

システムのメッセージ機能は非常時ではなくても使えるため、部門内での連絡に利用するよう促すことで、非常時も、スムーズに活用できるよう取り組んでいる。

ビル全体の防災訓練に参加

所在するビルの防災訓練には毎年社員が参加。火災時の煙体験や消火器体験など、災害時に発生する可能性があるさまざまな状況を体験できるコーナーを通して防災意識の向上を図っている。

煙体験コーナーの様子

AED訓練の様子